

「日本製鉄室蘭製鉄所における持続的発展について」

視点

日本製鉄株式会社室蘭製鉄所 総務部長

(北海道生産性本部：2020年7月室蘭地区支部長)

峰雪 輝史(みねゆき・てるふみ)氏



略歴:1971年生まれ。94年3月京都大学経済学部経営学科卒業。同年4月新日本製鐵㈱入社、5月本社経理部決算室配属。98年12月名古屋製鐵所総務部経理グループ、2000年12月本社財務部決算グループ、同グループマネジャー、財務総括グループマネジャーを歴任。09年4月名古屋製鐵所総務部経理グループリーダー。12年10月新日鐵住金㈱へ統合、名古屋製鐵所総務部経理室長。13年11月本社財務部決算室主幹、同室長を経て、19年4月日本製鐵㈱に社名変更、棒線事業部室蘭製鐵所総務部長。20年4月室蘭製鐵所に所名変更、室蘭製鐵所総務部長に就任。現在に至る。

室蘭製鐵所は、1909年(明治42年)に当時の北海道炭礦汽船が輪西製鐵場を開いたことに端を発する。以来地域の皆様にも支えられながら北海道唯一の高炉一貫製鐵所として、主に自動車部品・産業機械部品に使われる特殊鋼棒鋼・線材を製造している。製鐵業界は米中貿易摩擦に端を発する世界的な鋼材需要の減退・価格の低迷と原燃料価格の高止まりが同時発生する構造的な課題を抱えているものの、特殊鋼は今後も堅調な需要が期待されることから、弊社においては、グローバルマーケットにおける競争力強化を図るべく、欧州及び国内特殊鋼メーカーの子会社化など、特殊鋼事業の強化を進めている。その中において弊所は、中核製鐵所として世界一の特殊鋼棒線基地を目指し、地域との共生のもと所一丸となって製造実力を鍛え、お客さまにより付加価値の高い製品を提供していく。2020年には、弊社が有する最新の知見・技術を結集し、2001年以来19年ぶりとなる高炉改修を完遂したところであり、最新鋭高炉の安定操業をベースに、これまでに培ってきたノウハウと最新技術の活用に磨きをかけて更なる生産性向上を追求し、サステナブルで盤石な収益体質を構築する所存である。

弊社が盤石な収益体質を構築するにあたっては、地域との共生を含めた「持続可能な社会の実現(SDGs)への貢献」がベースにある。例えば環境面においては、弊社でも副生ガスや排熱利用による発電、製鐵所内使用水の再生・循環利用、発生スクラップの100%リサイクル、廃プラスチックリサイクルなどの「エコプロセス」の進化、最終製品での軽量化や効率化に資する高張力鋼をはじめとし

た高機能材などの「エコプロダクツ」の提供、世界最高水準にある環境・省エネルギー技術を地球規模で展開・普及する「エコソリューション」、中長期的視点での「脱炭素に向けた革新的技術開発」などを通じて環境負荷の少ない循環型社会への貢献に取り組んでいる。

また働き方の面においては、多様性を尊重し、多様な視点・価値観を経営・職場運営に反映すべく、製造現場を含めて女性採用を継続的かつ積極的に進めており、必要なインフラ整備なども順次実行するとともに、男女問わず仕事と家庭の両立(ワークライフバランス)を支援すべく、テレワークの導入やキャリアリターン制度の整備などにも取り組んでいる。

さらに地域との共生という面においては、弊所は室蘭市を中心とした地域とともに歩みを進めている。夏に行われる室蘭最大のイベント「室蘭ねりこみ」への参加や、社会人野球チーム「日本製鐵室蘭シャークス」への支援など、地域を盛り上げる取り組みを行っている。また、社会人リーグで活躍している弊社アイスホッケー部による室蘭市内小学生へのスケート授業や、教員の民間企業研修受け入れなどを通して、次世代を担う子供たちの育成支援にも取り組んでいる。

最後に、2020年度は新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るい、終息の見通しも未だ立たない状況が続いているが、逆にこれを奇貨として働き方改革を加速化させるとともに、有事の際の避難場所を地域に提供するなど、地域とともにこの時局に向き合っていく。